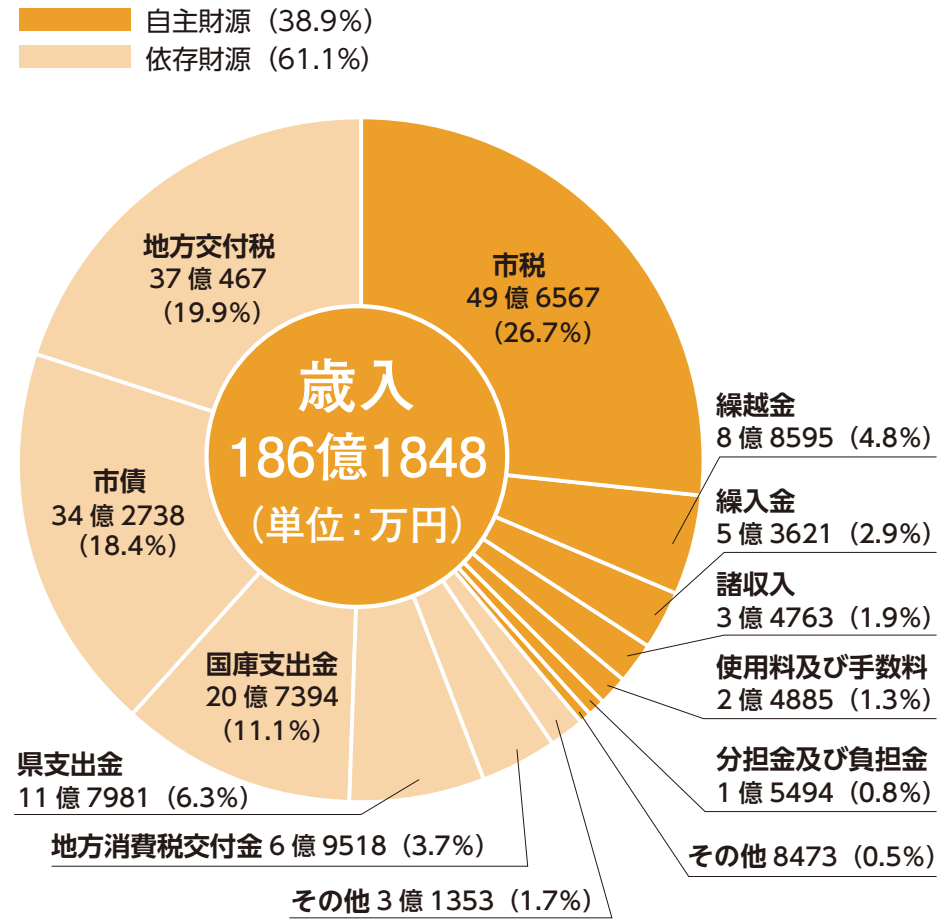


# 令和元年度 決算報告

令和元年度、見附市のお金がどのように使われたのか、決算の概要について  
一般会計を中心にお知らせします。  
企画調整課 ☎ 62・1700

## 一般会計の歳入

グラフ上の数値は集計の都合上、計と内訳が一致していません。



令和元年度は「深化するモデル都市」をテーマに、今まで行ってきた取り組みをさらに深掘りし、先進的なモデル都市に向けて、さらに前に進んでいく年に位置付けました。

主な事業としては、駅周辺の交通渋滞解消・交流拠点整備のための改修詳細設計、市立病院病棟整備の基設計・実施設計、耳取遺跡の整備計画策定に取り組みました。さらに、令和元年6月から使用が始まった新ごみ処理施設が適切に運営されているかモニタリングしながら、廃棄物の適正処理の推進を図りました。

その結果、一般会計の決算は歳入総額が186億1848万円、歳出総額が182億455万円となり、

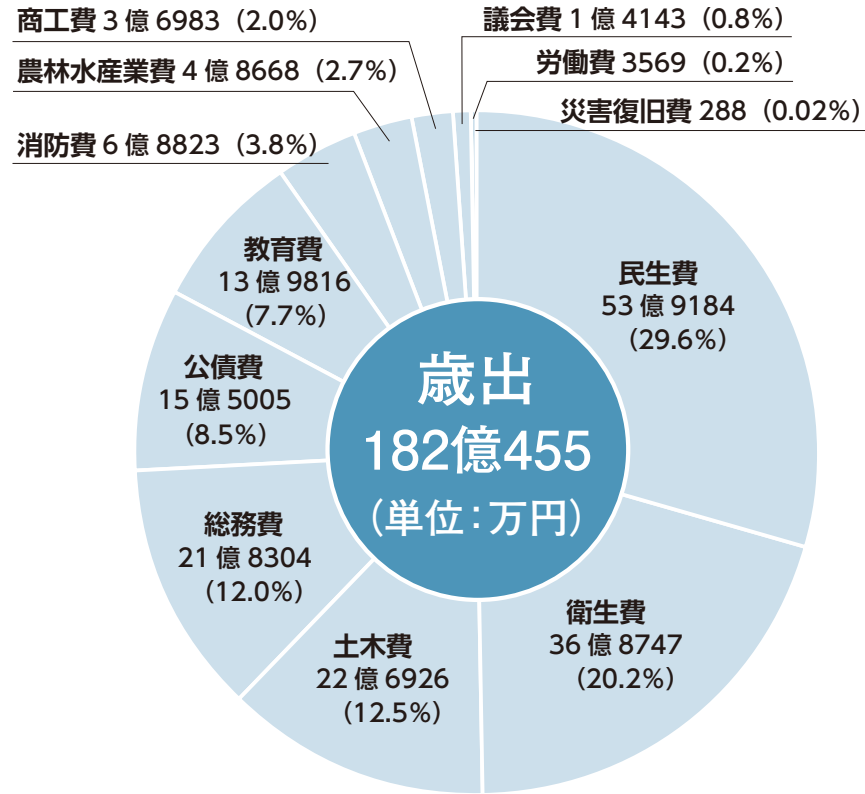
82億455万円です。歳入と歳出の差引額は4億1393万円となりました。

ここから、令和2年度へ事業を繰り越して使うための財源4203万円を差し引いた実質収支は3億7190万円の「黒字」となりました。

歳入は県支出金、繰入金などが増加した一方、国庫支出金、市債などが減少したため、前年度と比べ9.1%の減となりました。

皆さんから納められた市税など、市が確保できる「自主財源」の総額は、72億2398万円で、歳入に占める割合は38.8%となっています。

## 一般会計の歳出

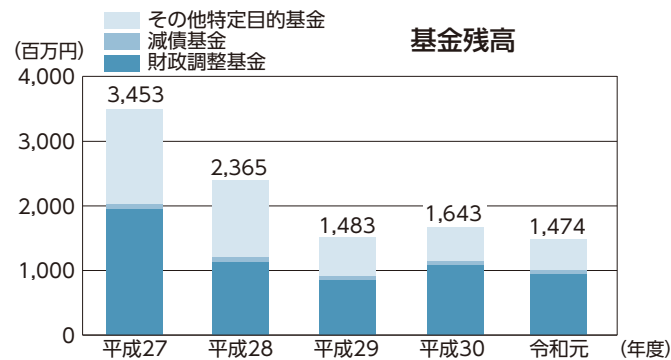
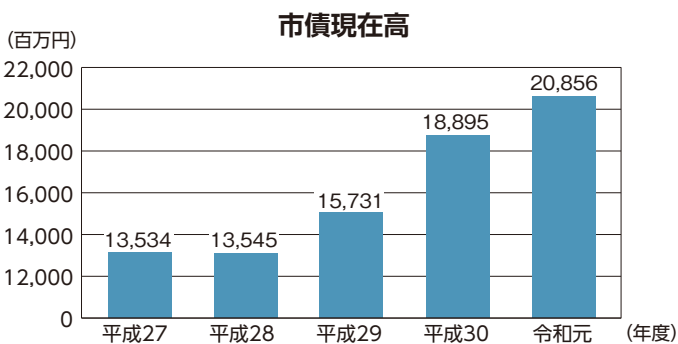


## 市の貯金と借金

市の貯金に当たるのが基金です。将来のまちづくりのために、必要な基金を保有し、効率的な運用をしています。

令和元年度末の基金は、財政調整基金などの取崩しにより、前年度末に比べ10.3%減少し、14億7405万円になりました。

一方、市の借金に当たるのが市債です。屈折はしご付き消防ポンプ車の購入など市の様々な事業を行うため、国や銀行からお金を借り、前年度に比べ10.4%増加しました。令和元年度末の市債残高は、208億5552万円となっています。



## 各費目の使い道は？

- 【民生費】** 高齢者福祉や障害者福祉、子育て支援、生活保護など
- 【衛生費】** ごみ処理やし尿の処理、健康診断・保健指導等の保健事業など
- 【土木費】** 道路・公園の整備や公営住宅の管理運営費など
- 【総務費】** 戸籍・住民基本台帳費や選挙の執行など
- 【公債費】** 借入金（市債）の返済に充てられる費用
- 【教育費】** 学校運営費や公民館などの社会教育費
- 【消防費】** 救急救助活動や消防団活動など
- 【農林水産業費】** 農林業の振興費など
- 【商工費】** 商工業や観光の振興など
- 【議会費】** 議会運営など
- 【労働費】** 雇用対策など
- 【災害復旧費】** 令和元年6月30日豪雨に対する災害復旧費